

一般社団法人日本生態学会

No.55

2021年9月

# ニュースレター

次々期会長および次期代議員選挙.....1

第 69 回日本生態学会大会（福岡 × オンライン）の案内.....2

## 記事

I. 第 21 回生態学琵琶湖賞受賞者..... 30

II. 書評依頼図書..... 30

III. 寄贈図書 ..... 30

書評..... 30

京都大学生態学研究センターニュース ..... 34

# 一般社団法人日本生態学会 次々期会長および次期代議員選挙

会員各位

一般社団法人日本生態学会選挙管理委員会

定款第6条、第29条ならびに「一般社団法人日本生態学会役員・代議員選任規則」に従って、日本生態学会の次々期会長（理事兼代表理事）候補者と次期代議員の選挙を行います。ぜひ期間内に投票をよろしくお願いいたします。

(1) 有権者：2021年8月1日の時点で会費を1年間分以上完納した本会の正会員

(2) 投票期間：2021年10月1日～2021年10月31日23:59

(3) 投票の方法

※ 投票はウェブ上での電子投票となります。

1. 投票は右記 URL より行います。 <https://iap-jp.org/esj/vote/member/login>
2. 画面に表示される手順にしたがって、**2021年10月31日23:59までに投票を完了してください。**

# 第69回日本生態学会大会(福岡×オンライン)の案内

| 最 | 終 | 版 |

第69回日本生態学会大会(ESJ69)を「ハイブリッド形式(オンライン開催+現地開催)」で以下の通り開催します。会期の前半に口頭/ポスター発表やフォーラム、受賞講演を「完全オンライン」で行ない、その後、1日の移動日をはさみ、会期の後半にシンポジウムや自由集会を「現地開催」を基本として行なう予定です。現地開催のシンポジウムや自由集会であってもオンライン(リアルタイム)で参加できます。また、それらの集会で一部の講演者がリモートで発表することもできます。さらに、すべての講演をオンデマンド視聴に対応させることで、大会参加者は、好きな時間に好きな講演を視聴することもできます。これら以外にもバーチャル空間での交流会や懇親会の開催、ポスター発表に適した大会プラットフォームの採用など、さまざまな工夫を凝らし、あらゆる人が参加しやすい大会を目指します。多くの方の参加をお待ちしています。また、多くのシンポジウムや自由集会の提案をお待ちしています。

※現在のところ、ハイブリッド形式での開催を予定しておりますが、新型コロナウイルスの今後の感染拡大状況に応じて、開催形態および現地開催の制限人数を変更する可能性があります。

## 大会概要

**会期** 2022年3月14日[月]～19日[土]

**会場** オンライン(3月14～16日)と福岡国際会議場(3月17～19日、ライブ配信あり)

**大会ウェブページ** <https://esj-meeting.net/>

申込みシステムや大会プラットフォームへのアクセス方法は大会ウェブページで連絡いたします。大会に関する問い合わせは大会ウェブページ(<https://esj-meeting.net/>)の「問い合わせ」からお願いします。

### [ 目次 ]

会期中のスケジュール 3 | 重要な日程 3 | ハイブリッド大会概要 4 | 新型コロナウイルス感染対策 5  
参加者の交流の促進 5 | 各種締切 6 | 諸経費の金額と支払い 7 | 集会の企画と講演の申込み 10  
シンポジウムの募集 13 | 自由集会の募集 15 | フォーラムの申込み 17  
一般講演(口頭、ポスター)の申込み 17 | 高校生ポスター発表会・みんなのジュニア生態学講座 22  
公開講演会 25 | エコカップ 26 | その他の情報 26 | ご意見 28

## 会期中の主なスケジュール

|            | 3月14日<br>(月) | 3月15日<br>(火) | 3月16日<br>(水・移動日) | 3月17日<br>(木)  | 3月18日<br>(金) | 3月19日<br>(土) |
|------------|--------------|--------------|------------------|---------------|--------------|--------------|
| ポスター発表     | オンライン        | ※1           | ※1               | ※1            | ※1           | ※1           |
| 口頭発表※2     | オンライン        |              |                  |               |              |              |
| 受賞講演・フォーラム | オンライン        |              |                  |               |              |              |
| 懇親会        |              | オンライン        |                  |               |              |              |
| シンポジウム※2,3 |              |              |                  | 現地開催（オンライン併用） |              |              |
| 自由集会※2,3   |              |              |                  | 現地開催（オンライン併用） |              |              |
| 総会         |              |              | オンライン<br>(夕方)    |               |              |              |
| バーチャル交流会   | オンライン        |              |                  | オンライン         |              |              |
| 高校生関連イベント  |              |              |                  |               |              | オンライン        |

※1 3月16日以降も、ポスターの掲示や、閲覧、ディスカッション（テキストチャット機能を使用）を行なうことができます。大会後も1週間程度は、ポスターを閲覧できる予定です。

※2 オンデマンド視聴にも対応予定です。大会後1週間程度までは発表の動画（オンデマンド配信を希望しない発表・集会は除く）を視聴できる予定です。

※3 シンポジウムと自由集会は、現地開催を基本としますが、オンライン形式での開催を選択することもできます。現地開催の場合でも、一部の講演者がリモートで講演することも可能です。すべてのシンポジウム・自由集会は開催形態に関わらずライブ配信されます。

補足：各種委員会は大会期間に先立って、それぞれZoomにて開催いただくことを予定しています。

## 重要な日程

### ■参加申込み関連（概要）

|                     | 一般・学生                                                                     | 自由集会のみの聴講／<br>高校生対象講座の聴講        | 講演のない学部生<br>・中高生   |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|--------------------|
| 参加申込みと<br>参加費支払いの期間 | 2021年10月1日<br>～大会当日                                                       | 2021年10月1日<br>～2022年2月21日       | 2022年3月1日<br>～大会当日 |
| 参加費                 | 早期割引価格※<br>一般：13,000円<br>学生：5,000円<br><br>通常価格<br>一般：15,000円<br>学生：6,000円 | 1,000円（自由集会のみ）<br>0円（高校生対象講座のみ） | 無料                 |
| 現地参加人数・可否           | 現地参加は<br>先着1000人（予定）                                                      | 現地参加は不可                         | 現地参加は不可            |

※2022年2月21日までが対象

## ■講演申込み関連（概要）

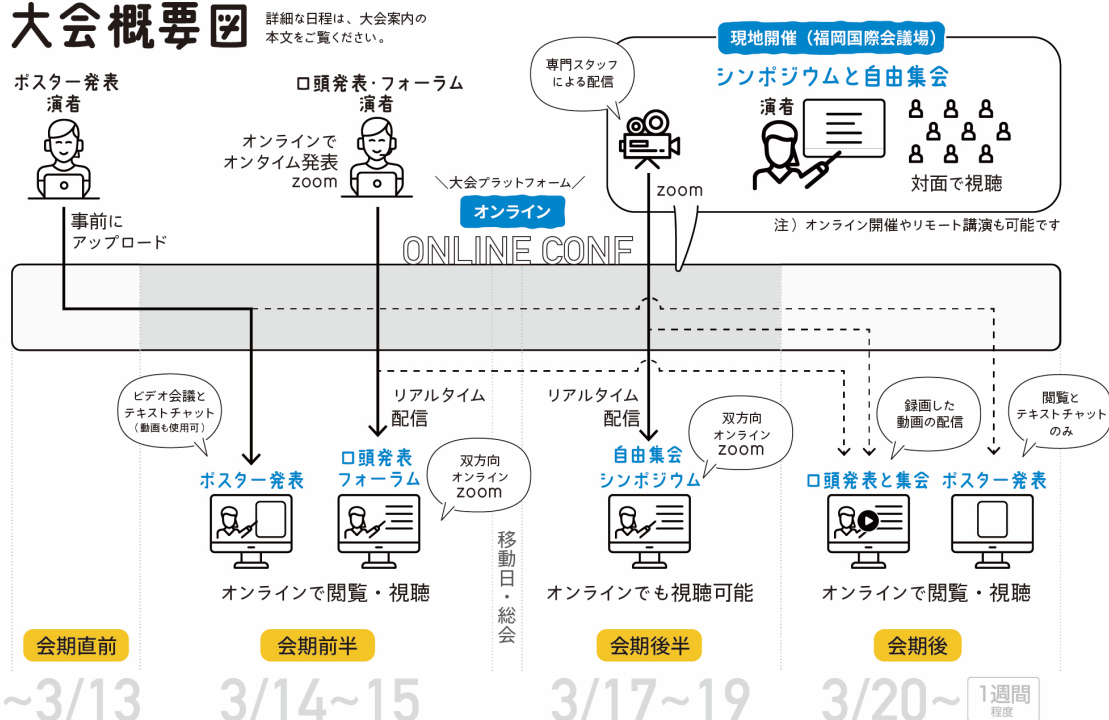
|                                           | 締切                    |
|-------------------------------------------|-----------------------|
| 口頭・ポスター発表と高校生ポスターの講演申込み                   | 2021年 11月 1日<br>23:59 |
| シンポジウムと自由集会、フォーラムの企画申込み                   |                       |
| 企画者や講演者の入会期限（非会員の場合）                      |                       |
| 企画者や講演者の年会費の支払い                           | 2022年 2月 21日<br>23:59 |
| 講演要旨の登録<br>（集会内の講演、口頭発表、ポスター発表、高校生ポスター発表） |                       |

※集会（シンポジウムと自由集会）の企画者と、集会内での講演者（招待講演者を除く）、一般講演の講演者は、集会の提案あるいは講演申し込みまでに、本学会に入会する必要があります。

※各締切日の17:00～翌日10:00はお問い合わせに対応できません。さまざまな手順の確認はお早めをお願いします。

## ハイブリッド大会の概要

### 大会概要図



- ESJ69では、大会のオンラインプラットフォーム（以下、大会プラットフォーム）として **ONLINE CONF** (<https://agri-smile.com/service/online-conf/>) を用います。
- 大会プラットフォーム上では、タイムスケジュールや各セッションの講演情報や講演要旨などが閲覧できるほか、各種集会や口頭発表へのアクセス、ポスターの閲覧が行なえます。

- ポスター発表のコアタイムでは、プラットフォーム（ONLINE CONF）に搭載されたビデオ通話機能を用いて議論をしていただきます（チャット機能を用いた議論も可能）。
- 口頭発表は、Zoomミーティング（<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>）を用いてリアルタイムで実施します（完全オンライン）。
- シンポジウムと自由集会は、現地開催を基本とし、Zoomミーティングを用いてリアルタイム配信を行ないます。完全オンライン（リモート）で開催したり、集会内で一部の講演者のみがリモートで講演を行なうことも可能です。
- 口頭発表と集会内の発表等は録画され、大会後1週間程度、大会プラットフォーム内で参加者に向けて公開（オンデマンド配信）されます。公開の可否については申込時に確認します。

## 新型コロナウイルスへの感染対策

### ■ 現地参加の人数制限と現地参加の権利の付与

新型コロナウイルスへの感染対策として、現地会場への来場者数の上限を1,000名（会場の席数の約50%）とします。

まず、現地開催を希望するシンポジウムや自由集会の企画者や講演者は、現地参加の権利が優先して付与されます。次に、参加申込み時に、現地会場への来場を希望した参加者の中から先着順（参加費の支払い順序ではなく、参加申込みの順序）で制限人数に達するまで、現地参加をする権利を付与する予定です。現地参加を希望する方は、できるだけ早い参加申込みをお願いいたします。現地参加の可否は、参加申込み時には確定されず、後日メールにてお知らせいたします。新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、現地参加者の制限員数が増減する可能性があります。現地開催自体が中止になる場合もあります。また、無料で参加する学部学生や中高生、および自由集会聴講券での参加者は、現地参加できません。なお、現地参加者が上限に達していない場合でも、当日参加での現地参加は認められません。

### ■ 各会場への入場制限

新型コロナウイルスへの感染対策として、現地開催する集会では、各会場への入場者数を平常時の50%程度までといたします。具体的には、平常時の50%となるように座席を設置いたしますので、座席に空きがなくなった時点で入場ができなくなります。

なお、すべての集会はライブ配信されますので、人数制限により、入場できなかった場合には、オンライン視聴を行なうための別会場で、ライブ配信されている集会を視聴することが可能です。PCやタブレット、イヤホン等をご持参ください。ただし、基本的には、すべての集会は、オンデマンド配信に対応予定ですので、入場制限によって、入室できなかった場合には、席に空きのある集会に参加していただくことを推奨いたします。

## 参加者の交流の促進

### ■ オンライン交流会

本学会大会は、ESJ67が中止、ESJ68がオンライン大会となり、2年連続で対面での開催ができておりません。本大会も現地開催の日程が制限されるほか、現地参加できる参加者数も制限されます。このような状況ではありますが、参加者間の交流の機会を確保するため、SpatialChat等を用いてオンラインの交流会を開催する予定です。

口頭発表の各セッションや各集会（シンポジウムや自由集会）の終了後、30分の交流時間を

設けます。参加したセッションや集会の交流スペースに参加していただき、分野の近い方との交流をお楽しみください。もちろん、参加したセッションや集会以外の交流スペースに入室することも可能です。実りある大会にするためにも、積極的な参加を歓迎します。

## ■オンライン懇親会

ESJ69では、SpatialChatを用いたオンライン形式で懇親会を開催予定です。大会参加者（高校生や自由集会聴講者を除く）なら誰でも参加できます。懇親会費は無料となります。参加申込も不要です。詳細は、大会ウェブサイトや大会プラットフォーム上でお知らせします。

## 各種締切

### ■講演または企画のための新規入会・再入会と会費の納入期限

|               |                    |
|---------------|--------------------|
| 非会員の入会申込      | 2021年11月1日（月）23:59 |
| 非会員の学会費入金     | 2022年2月21日（月）23:59 |
| 既会員の当該年度学会費入金 | 2022年2月21日（月）23:59 |

※オンライン入会ページより入会申込みの後、会員業務窓口より仮会員番号を通知します。仮会員番号を用いて以下の集会および講演の申込みを行ってください。

※入会申込は随時受け付けますが、講演・企画申込のためには2021年11月1日23:59までに新規入会申込・仮会員番号取得を終えて講演・企画申込をする必要があります（講演・企画申込が23:59を超えてはいけません）。入会申込の申請から仮会員番号の発行までは時間を要する場合がありますので、講演・企画申込をする方は時間に余裕を持って入会申込をしてください。入会手続きについて：<https://esj.ne.jp/esj/Nyukai.html> を参照

### ■講演者・企画者に関連する各種締切

|          |             |                       |
|----------|-------------|-----------------------|
| 申込み      | シンポジウムの提案   | 2021年 11月 1日<br>23:59 |
|          | 自由集会の提案     |                       |
|          | 一般講演        |                       |
|          | 高校生ポスター発表   |                       |
| 講演要旨登録   | 集会内の講演・一般講演 | 2022年 2月 21日<br>23:59 |
|          | 高校生ポスター     |                       |
| 大会参加費の支払 |             | 当日まで受け付けます            |

※スケジュールに変更の可能性がありますので、適宜、大会ホームページでご確認ください。

※各締切日の17:00～翌日10:00はお問い合わせに対応できません。さまざまな手順の確認はお早めをお願いします。

※すべての締切に関して、締切後の追加や修正等の依頼には対応できません（正誤表での対応も予定しておりません）。



## ■聴講者としての参加申込み等

|                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 大会参加申込み                              | 大会当日まで可能※ <sup>1</sup>  |
| 大会参加費支払                              | 大会当日まで可能                |
| 自由集会のみの聴講※ <sup>2</sup><br>(自由集会聴講券) | 2022年 2月 21日<br>23:59まで |
| みんなのジュニア生態学講座<br>のみの聴講※ <sup>2</sup> |                         |

※<sup>1</sup> 当日参加も可能ですが、現地参加を希望する場合は、早めの参加申込をお願いします。当日参加では、現地参加は受け付けません。

※<sup>2</sup> 自由集会のみ、あるいはみんなのジュニア生態学講座のみの聴講の場合は、大会プラットフォームに入ることはできません。大会当日までに聴講可能なイベントのURLをメールにて連絡いたします。

## 諸経費の金額と支払い

### ■学会費（年会費）

講演・企画を希望される場合は、締切までに2022年からの入会が必要です。2021年11月1日までに入会申込後、2022年2月21日までに学会費をお支払いください（会費未納により会員資格停止された方の再入会を含みます）。既会員が講演・企画をされる場合は、同期日までに2021年学会費入金が必要です。

入会申込はこちら：<https://esj.ne.jp/esj/Nyukai.html>

### 入会に関する問合せ先：

一般社団法人日本生態学会 会員業務窓口

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

E-mail: [esj-post@bunken.co.jp](mailto:esj-post@bunken.co.jp) / TEL: 03-6824-9381 / FAX: 03-5227-8631

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～17:00（土日祝を除く）

### ■大会参加費・懇親会費

- 会員と非会員で参加費は共通です。オンライン参加者と現地参加者でも参加費は共通です。
- 大会参加費の金額は、期日までに支払手続きを完了した場合に適用されます。
- 「定収入のない若手会員」の参加費は「学生」と同額になります。事前に会員業務窓口へ申請の上、「定収入のない若手会員（2021年）」と認められた方はその旨を明記して大会参加申込みをしてください（参照：[https://esj.ne.jp/esj/fee\\_discount/fee\\_discount.html](https://esj.ne.jp/esj/fee_discount/fee_discount.html)）。
- 高校生のためのジュニア生態学講座については、参加費が無料です。大会に参加せず、当講座のみの聴講を希望される方は、2022年2月21日までに参加申込みをしてください。
- 大会参加費については2022年2月21日（月）取消分まで全額を返金します（振込手数料等の経費は除く）。それ以降は返金できません。
- 申し込みシステムの移行のため、2022年2月22日～2月28日までは参加申込みの受付を停止する予定です。



| 種別                     | 大会参加費                 |                    | 懇親会費    |
|------------------------|-----------------------|--------------------|---------|
|                        | 早期割引価格<br>2022/2/21まで | 通常価格<br>2022/3/1以降 |         |
| 一般                     | 13,000円               | 15,000円            | 無料      |
| 学生                     | 5,000円                | 6,000円             | 無料      |
| 自由集会のみの聴講<br>(自由集会聴講券) | 1,000円                | この期間に<br>申込みできません  | 参加できません |
| 講演のない学部学生              | この期間に<br>申込みできません     | 無料                 | 参加できません |

#### ■補足：参加費の設定について

今大会では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、現地開催の日程を例年の大会と比べて短縮しています。これにより会場借用費用が削減されていますが、それにも関わらず、大会参加費（懇親会費を含まず）がこれまでの現地開催の大会と同額あるいはそれ以上となっております。これは、口頭発表とポスター発表のオンライン化に関わる費用と、参加者のダイバーシティー（特に、現地開催の大会に参加することが困難な方）に対応するための費用の増額によるものです。具体的には、オンライン大会用のプラットフォームの使用料、オンラインでの交流会場の設置費用、ライブ配信に関わる費用、オンデマンド対応を行なうための費用が含まれます。ダイバーシティーに配慮した新しい学術大会を行なうためであり、参加者の皆様にはご理解いただきたく存じます。

#### ■参加申込み方法

##### 一般の参加者の場合（大学院生以上と講演のある学部生を含む）

- 大会参加申込みと支払い手続きは、時期により利用するシステムが異なります。2022年2月21日までは大会申込サイト、2022年3月1日以降は大会プラットフォーム上（ONLINE CONF上）で行なっていただきます（2月22～28日は、システム移行手続きのため参加申込みは行なえません）。各サイトのURLは、大会ウェブページで案内いたします。
- 参加申込みと支払いを別の時期に別のシステムで行なっても問題ありません。
- 大会参加費を支払うことで、大会プラットフォームの全機能を利用することができるようになります。必ず大会当日までに大会参加申込みと参加費の支払手続きを完了してください（参加申込みが終了した時点では、大会プラットフォームの機能の内、参加費支払いを含む一部の機能しか利用できません）。
- 大会プラットフォームにログインできなければ、ポスターのアップロードや各講演へのZoom

のURLの確認ができません。講演や視聴のトラブルを軽減するため、大会前に参加費を払い、大会プラットフォームへのログインを試していただくことを強く推奨します。

- 本大会は、オンラインでの参加のみ、当日参加も受け付けています。
- 参加申込みの際に、シンポジウムと自由集会（3月17～19日）への現地参加の希望を伺います。現地参加の権利は先着1000人（予定）のみに付与されますので、希望する場合は、できるだけ早い時期の申込みをお願いします。
- 要旨登録時、関心のあるキーワードを5つ程度選択していただきます。

#### 聴講者として大会公式行事に参加する場合

- 非会員の方でも、大会参加費をお支払いいただければ、聴講者として参加できます。
- 会員・非会員ともに、大会申込サイト、または、大会プラットフォーム上から大会参加申込と大会参加費の支払いを行なってください（時期により、支払いに利用するシステムが変わるのでご注意ください。参加申込みと支払いが別のシステムでも問題ありません）。
- 自由集会のみを聴講する場合には、自由集会聴講券（1,000円）を利用可能です。2022年2月21日までに大会申込サイトから申込みを行ない、自由集会聴講券を購入してください。自由集会聴講券は、大会期間中、複数日にわたって利用できます。ただし、自由集会聴講券では、現地参加や懇親会への参加はできません。
- 講演のない学部学生（中・高校生を含む）の大会参加費は「無料」です。2022年3月1日以降に大会プラットフォーム上から大会参加申込みを行なってください（申込み時に学生証の写しの提出を求めます）。
- 高校生ポスター発表会での発表、および「みんなのジュニア生態学講座」も参加費は無料です。詳しくは、高校生ポスター発表会・「みんなのジュニア生態学」の案内をご覧ください。ポスター発表を行なう場合は、2021年11月1日までに、ジュニア生態学講座の聴講のみをする場合は、2022年2月21日まで大会申込サイトから参加申込みをしてください。

## 集会の企画と講演の申込み

- 講演・企画の申込は、大会申込サイトから行なっていただきます。9月末頃稼働の予定ですので、大会公式ホームページで随時最新情報をご確認ください。
- 講演・企画の申込み手続きの詳細は、以下の「各種集会の企画申込」または「一般講演」の項目をご確認ください。
- すべての申込みについて、締切後の申込は一切受け付けられません。入力ミス・文字化けについても訂正しません。また、今大会は正誤表による修正も行ないませんので、十分ご注意のうえ、お申込みください。

### ■大会参加資格一覧

会員種別ごとの参加資格は、以下の表の通りです。企画・講演の重複制限については、各集會および一般講演の詳細をご覧ください。

| 講演種別                      | 会員種別 |     |
|---------------------------|------|-----|
|                           | 会員※1 | 非会員 |
| 聴講者としての大会参加               | ○    | ○   |
| 一般講演（口頭発表・ポスター発表）※2       | ○    |     |
| シンポジウム・自由集会の企画※3          | ○    |     |
| シンポジウムでの講演※2              | ○    | ○※5 |
| 自由集会での講演※2                | ○    |     |
| シンポジウム・自由集会のコメンテータ・意見表明※4 | ○    | ○   |

※1 日本生態学会の正会員（一般・学生）および名誉会員を指します。賛助会員は含まれません。

※2 講演の主たる発表者（説明者）を意味します。共同発表者は会員である必要はありません。

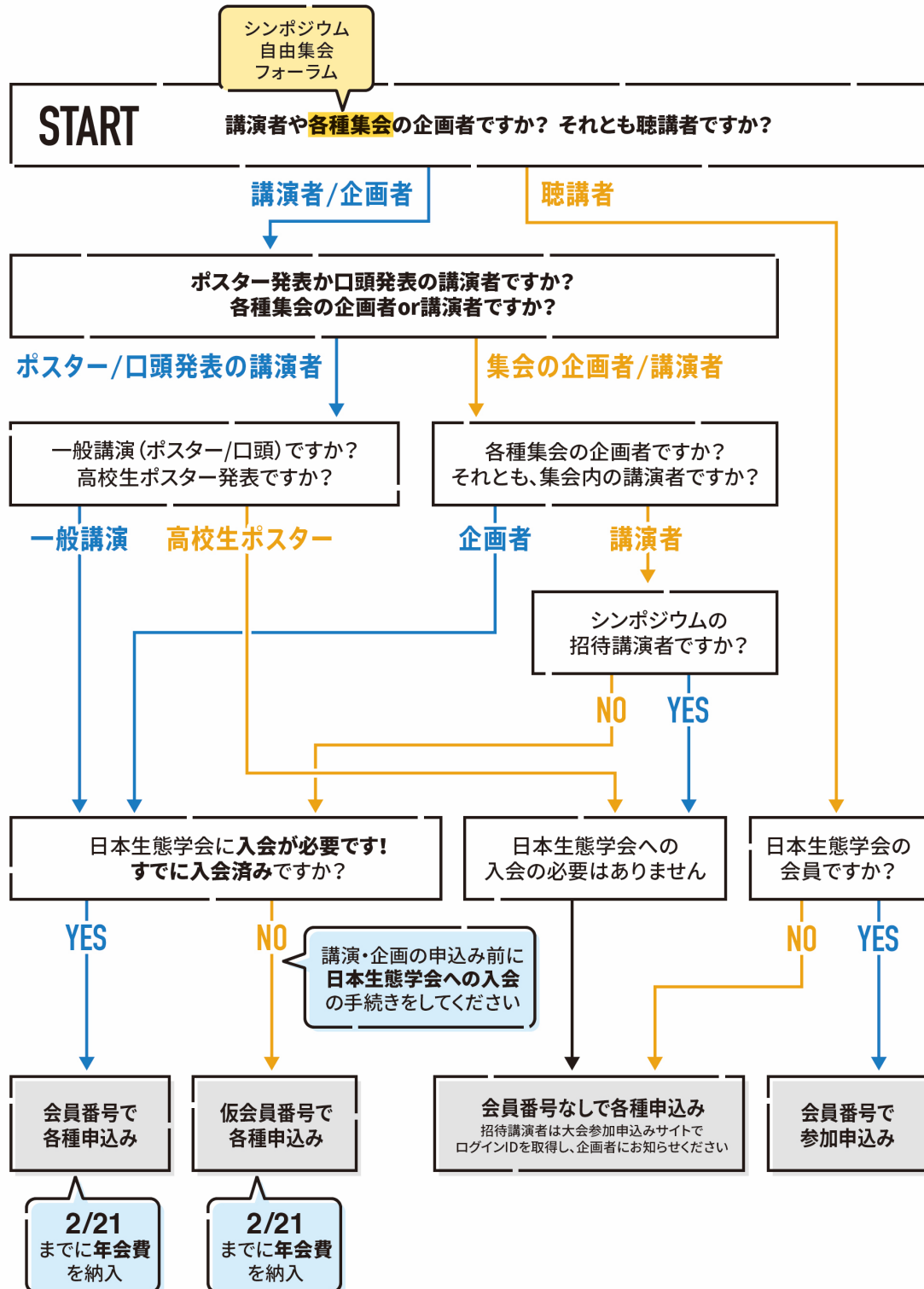
※3 共同企画者も会員に限ります。

※4 要旨を登録しないコメンテータや意見表明を指します。要旨登録を行なうと「講演」となります。

※5 企画者に招待された方に限ります。下記「シンポジウムの募集」の「シンポジウムの企画内容について」をご参照ください。

## ■参加・講演申込みのフローチャート

参加申込や講演申し込み、学会への入会など、申込み手順が若干複雑になっています。以下のチャートでご自身が行なうべき手続きをご確認ください。



## ■各種集会の企画申込みの諸注意

- 現地開催（企画者と講演者が会場に集まる）を基本とします（フォーラムを除く）。
  - 完全オンラインや一部講演者がリモートで講演を行なう形式でも開催可能です。
  - 開催形式に関わらず、大会参加者は、全講演をオンラインで視聴できます。
  - 集会は、録画され、オンデマンド配信（会期後1週間程度）の対象となります。
  - 開催形態の希望やオンデマンド公開の可否については、申込時に確認します。
- 集会には、「シンポジウム」と「自由集会」、「フォーラム」の3種類があります。フォーラムは、Zoomミーティングを用いたオンライン開催、シンポジウムと自由集会は、Zoomミーティングによる配信を併用した現地開催を基本とします。
  - 企画申込には、共同企画者・講演者（主たる説明者、以下同様）が大会申込サイトに登録をすませておく必要があります。共同企画者・講演者はご自身の会員番号（非会員講演者の場合はログインID）を使って大会申込サイトにログインし、申込者情報（メールアドレス、所属先など）の登録をお早めにおすすませください。
  - 企画者は、大会申込サイトに登録された会員番号を用いて企画申込を行います。会員番号は、マイページの会員検索機能によっても調べることができます。
  - 企画提案時の入力内容がそのまま大会プラットフォーム上に掲載されます。差し替えには一切応じられませんので、ご了承ください。
  - 集会のオンライン配信を行なうため、専門業者によるZoom操作の当日サポートを行ないます。
  - 大会期間前にZoomによる集会開催のリハーサル的機會を設ける予定です。

|                        | シンポジウム                                                        | 自由集会                                           |
|------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 位置づけ                   | 大会の核となる集会                                                     | 様々な話題を自由に議論する場                                 |
| 開催時間                   | 3時間                                                           | 1.5時間                                          |
| 開催の優先度                 | 最優先                                                           | 会場が足りない場合は抽選                                   |
| 開催日時                   | 聴衆の集まりやすい日時に開催                                                | 夕刻を中心に開催                                       |
| 非会員による講演               | <u>奨励</u><br>招待講演者として参加費を免除                                   | <u>不可</u><br>要旨登録を伴わないコメント等は可能                 |
| 企画者・講演者の一般講演           | 不可                                                            | 可                                              |
| 企画者・講演者の<br>他集会での企画や講演 | 不可                                                            | 不可                                             |
| 開催形態                   | <u>現地開催を基本とする</u><br>現地開催を優先して割り当てる                           | <u>現地開催を基本とする</u><br>応募枠を超えた場合、オンラインでの開催に切り替える |
| 補足                     | いずれの集会も、希望があれば一部講演者がリモートで登壇すること、もしくは集会全体を完全オンラインで開催することが可能です。 |                                                |

## シンポジウムの募集

ESJ69では、大会シンポジウムの企画案を会員から募集します。シンポジウムは、大会の中心となる集会です。下記の趣旨をご理解のうえ、奮ってお申込みください。シンポジウムの開催時間は3時間の予定です。なお、現地開催（企画者と講演者が現地に集まり登壇すること）を基本としていますが、完全オンラインでの開催や一部の講演者のみがリモート（オンライン）で講演することも可能です。多様な立場やジェンダー、国籍の研究者からの意欲的な提案を期待しています。なお、発表は録画され、会期中あるいは大会後1週間程度、大会参加者向けにオンデマンド配信される予定です。オンデマンド配信の可否については、企画の提案時に確認します。

### ■シンポジウムの企画内容について

- 大会参加者は、毎年多様なテーマに関するシンポジウムが開催されるとともに、これまでになかった新鮮なテーマのシンポジウムが開催されることを期待しています。
- 他分野との交流を深めるため、生態学会の非会員の方に招待講演をしていただくことも可能です。招待講演者の大会参加費は無料となります。なお、同一の非会員による2年連続の招待講演はできませんのでご注意ください。
- 新型コロナウイルスの感染状況を見通せないことから、例年採用していたEcological Research 誌による招待講演者（ER招待講演者）の募集を本大会では行ないません。しかしながら、シンポジウムでの国際的な情報発信や議論の活発化のため、海外研究者のオンライン参加や非会員の方の招待講演者制度を利用した積極的な参加を歓迎します。

### ■シンポジウム企画者が行なう手続き

- シンポジウムの応募締切は、2021年11月1日（月）23:59です。
- 企画者は、ダイバーシティの尊重の観点から、企画者や講演者の立場やジェンダーなどのバランスに配慮して集会を構成してください。
- 大会企画委員会は集会の内容に関与しませんが、個人および団体を誹謗中傷する内容などを含むと判断されるシンポジウム企画は採択されないことがあります。
- 企画者は、企画の提案時に、集会全体（趣旨説明やコメンテーターによるコメント部分を含む）についてのオンデマンド配信の可否、および各講演についてのオンデマンド配信の可否について回答していただきます。
- 現地開催を希望するシンポジウムの提案数が会場の収容可能数を上回る場合、オンラインのみでの開催に切り替えて頂く場合があります。同様に、オンラインでの開催の希望が多すぎる場合には、現地開催に切り替えることができないか、検討をお願いする可能性もあります。開催形態や開催の可否については、締切の約3週間後にメールで連絡します。
- 企画者がすべての講演をまとめて登録します。企画者は申込み前に、日英語両方の各講演情報（講演タイトル、講演者・共同発表者の氏名・所属）および企画者・共同企画者・講演者の会員番号（招待講演者についてはログインID）をあらかじめ集約しておいてください。
- 申込サイトにアクセスし、シンポジウムタイトル、集会要旨（日本語なら800文字以内、英語なら200単語以内）、各講演情報を入力してください。また、共同発表者の情報もこの入力により確定するため、講演要旨登録時には変更できませんのでご注意ください。

## ■シンポジウム講演者が行なう手続き

- 非会員の招待講演者を除き、シンポジウムで講演できるのは 2021年11月1日（月）までに学会への入会申込みを行ない、2022年2月21日までに学会費の納入をすませた会員（正会員および名誉会員、以下同様）のみです。
- 講演者（招待講演者を除く）は、大会当日までに参加費を納入してください。大会プラットフォームにスムーズにログインするために、できるだけ早い納入を推奨します。なお、2022年2月21日までなら、参加費が早期割引の対象となります。
- 各講演者は、日本語・英語両方の各講演情報（講演タイトル（日本語全角40文字/英語半角150文字以内）、講演者・共同発表者の氏名・所属）および講演者の会員番号（招待講演者についてはログインID）をシンポジウムの提案時（2021年11月1日締切）までに企画者にお知らせください。また、自身の講演についてのオンデマンド配信の可否についても企画者にお知らせください。
- 各講演者は、2022年2月21日（月）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語なら800文字以内、英語なら200単語以内）を登録してください。

## ■シンポジウム応募の制限

- 企画者（共同企画者も含む、以下同様）は会員（正会員および名誉会員、以下同様）に限ります。非会員は企画者になれません。
- 異なるシンポジウム間で重複して企画者または講演者（講演の主たる説明者、以下同様）となることはできません。
- シンポジウムの企画者・講演者は、自由集会の企画者・講演者、一般講演（口頭発表、ポスター発表とも）の講演者になることはできません。
- 要旨登録を伴わない趣旨説明やコメント、意見表明などは、講演には数えません。そのため、これらは講演の重複制限の対象とはなりません。
- シンポジウムとして申請する場合、講演者は2名以上で構成してください。講演者が1名だけの場合は自由集会として申請してください。

## ■英語使用の推奨

- 日本生態学会では、留学生や海外からの大会参加が増えています。今後もさらに参加者同士の研究交流が進むことを目指して、シンポジウムにおける英語の使用（日本語との併用を含む）を奨励します。
- 日本語で開催されるシンポジウムでは、可能な範囲で、スライドでの英語の併記や簡単な英語版ハンドアウトの用意などの工夫をお願いします（ハンドアウトや二か国語スライド等は、英語開催のシンポジウムにおいて非英語話者の参加を促すのにも有効です）。



## 自由集会の募集

ESJ69では自由集会を募集します。自由集会は、新しい分野の立ち上げを助け、生態学の枠組みからはみ出す話題についても自由に議論できる場として、生態学会が伝統的に重視してきた集会です。下記の趣旨をご理解のうえ、奮ってお申込みください。自由集会の開催時間は1.5時間の予定です。なお、現地開催（企画者と講演者は現地に集まり登壇すること）を基本としていますが、完全オンラインでの開催や、一部の講演者のみがリモート（オンライン）で講演することも可能です。多様な立場やジェンダー、国籍の研究者からの意欲的な提案を期待しています。なお、発表は録画され、会期中あるいは大会後1週間程度、大会参加者にオンデマンド配信される予定です。録画された動画の配信の可否について、企画の提案時に確認します。

### ■自由集会の企画者が行なう手続き

- 自由集会の応募締切は、2021年11月1日（月）23:59です。
- 企画者は、ダイバーシティの尊重の観点から、企画者や講演者の立場やジェンダーなどのバランスにできる限り配慮して集会を構成してください。
- 大会企画委員会は集会の内容に関与しませんが、個人および団体を誹謗中傷する内容などを含むと判断される企画は採択されないことがあります。
- 企画者は、企画の提案時に、集会全体（趣旨説明やコメンテーターによるコメント部分を含む）についてのオンデマンド配信の可否、および各講演についてのオンデマンド配信の可否について回答していただきます。
- 企画者がすべての講演をまとめて登録します。企画者は申込み前に、日本語・英語両方の各講演情報（講演タイトル、講演者・共同発表者の氏名・所属）および企画者・共同企画者・講演者の会員番号をあらかじめ集約しておいてください（要旨登録を伴わないコメントや意見表明を行なう方の会員番号入力不要です）。
- 申込サイトにアクセスし、自由集会のタイトル、集会要旨（日本語なら800文字以内、英語なら200単語以内）、各講演情報を入力してください。また、共同発表者の情報もこの入力により確定するため、講演要旨登録時には変更できませんのでご注意ください。

### 自由集会の採否について

- 十分な会場数およびZoomのアカウント数を確保する予定ですが、提案数が例年を大幅に上回る場合には、抽選で自由集会の採否を決定します。
- 現地開催を希望する自由集会の提案数が会場の収容可能数を上回る場合、オンラインでの開催に切り替えていただく可能性があります。同様に、オンラインでの開催の希望が多すぎる場合には、現地開催に切り替えることができないか、検討をお願いすることがあります。
- 開催の可否、開催形態については、締切の約3週間後にメールで連絡します。

### 注意事項

- 意見表明やライトニングトークのように、要旨登録を伴う講演のない集会を開催することも可能です。この場合は講演登録の手続きを行なう必要はありません。
- 要旨登録を伴わない趣旨説明、コメント、意見表明などは、講演には数えません。そのため、要旨登録を伴わないコメントや意見表明を行なう方の情報は講演者としては登録せず、集会要旨の中に記載してください。
- 要旨登録を伴わないコメントや意見表明を行なう方についても、大会参加申込もしくは自由集会聴講券の購入が必要です。企画者は注意喚起をお願いします。

## ■自由集会の講演者が行なう手続き

- 講演者になれるのは、2021年11月1日（月）までに入会申込みを行ない、2022年2月21日までに学会費（年会費）の納入を済ませた正会員のみです。非会員の方に招待講演をしていただくことはできません（要旨登録を伴わないコメントや意見表明は可能です）。
- 各講演者は、大会当日までに参加費を納入してください。大会プラットフォームにスムーズにログインするために、できるだけ早い納入を推奨します。なお、2022年2月21日まで参加費が早期割引の対象となります。
- 各講演者は、日本語・英語両方の各講演情報（講演タイトル（日本語全角40文字/英語半角150文字以内）、講演者・共同発表者の氏名・所属）および講演者の会員番号を自由集会の提案時（2021年11月1日締め切り）までに企画者にお知らせください。また、自身の講演についてのオンデマンド配信の可否についても企画者にお知らせください。
- 各講演者は、2022年2月21日（月）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語なら800文字以内、英語なら200単語以内）を登録してください。
- 要旨登録時、講演に関連するキーワードを5つ程度選択していただく予定です。

## 注意事項

- 要旨登録を伴わないコメントや意見表明を行なう方についても、大会参加申込みもしくは自由集会聴講券の購入が必要です。参加申込みや参加費の支払いを済ませてください。
- 要旨登録を伴わない趣旨説明、コメント、意見表明などは、講演には数えないため、これらは発表の重複制限の対象とはなりませんが、どの集会で発表を行なっているのか把握できないため、シンポジウムとのスケジュール調整は事実上不可能です。

## ■自由集会の企画内容と応募の制限について

- 自由集会は、新しい分野の立ち上げを助け、生態学の枠組みからはみ出す話題についても自由に議論できる場として、生態学会が伝統的に重視してきた集会です。
- 自由集会では、全体の趣旨説明と概要のほか、個別の講演の要旨も、大会ウェブページや大会プラットフォーム上に掲載されます。
- 企画者（共同企画者も含む、以下同様）は会員（正会員および名誉会員、以下同様）に限ります。非会員は企画者になれません。
- 講演者は会員に限ります（「講演者」は「講演の主たる説明者」を意味します。以下同様）。非会員の方に招待講演をしていただくことはできません（要旨登録を伴わないコメントや意見表明は可能です）。
- 自由集会の企画者・講演者は、一般講演（口頭発表もしくはポスター発表）のみ、重複して講演することができます。
- 自由集会の企画者・講演者は、シンポジウム及び他の自由集会の企画者・講演者となることはできません。

## フォーラムの申込み

フォーラムとは、生態学会の各種委員会が企画し、生態学会の運営や学会が取り組んでいる生態学に関連する課題について広く会員の意見を募り、会員相互の情報共有を促すとともに、広範な議論により学会内の合意を形成することを目指すものです。会員（正会員および名誉会員、以下同様）は大会参加申込の有無に関わらず、フォーラムには無料で参加することができます。フォーラムの企画やフォーラムでの話題提供は、重複講演制限の対象となりません。申込は各委員会代表者が行ないます。フォーラム企画の仮提案は、2021年9月15日を締切として、すでに受付を終了しています。仮提案は、理事会に意見聴取をし、大会企画委員会および実行委員会との調整の上で、最終的な採択の可否が決定されます。これらの協議の過程で、内容の修正や開催形態の調整を求められることがあります。採択が決定したフォーラムについては、大会申込みサイトより企画の本提案の申込みをしていただきます。フォーラムのオンラインで開催され、開催時間は約1.5時間です。

### 注意事項

- 会員には、フォーラム会場となるZoomのURLを会期前にメールにてお知らせいたします。
- 非会員の大会参加者（大会参加費支払者）も、フォーラムに参加できます。
- 非会員の自由集会聴講券の利用者は、フォーラムに参加することはできません。
- フォーラムに招待された非会員講演者は、フォーラムのみ無料で参加することができます。シンポジウムや一般講演など他のプログラムへの無料参加はできないため、参加する場合は大会参加費を支払う必要があります。

## 一般講演（口頭、ポスター発表）の申込み

- 一般講演には口頭発表とポスター発表があります。それぞれの発表方法の詳細は、下記の説明をご覧ください。申込時に希望（口頭発表かポスター発表）をお聞きますが、それぞれの発表件数の多寡によってはご希望に沿えない場合もあります。
- 本大会では審査員確保の観点から、ポスター賞の申込数について、500件という上限を設定します。一般ポスターの申込数については、上限設定はありません。
- 口頭発表には、英語口頭発表賞の審査対象者を含めた英語セッションと通常のセッションがあります。通常のセッションにおいて英語で発表することも可能です。
- 海外からの招待者や留学生など、日本語を解さない参加者との交流のためにも、日本語の発表の場合でも一部英語併記を推奨します。
- 発表内容に応じた割り振りやポスター賞のグループ分けを行なうため、講演申込時に希望分野を選んでいただきます。一般講演申込のフォームに選択可能な分野一覧が示されますので、第3希望までお選びください。以下は講演申込のときに示される発表分野（候補）の一覧です。なお、応募数によっては、分野が統廃合される場合もあります。

| 群落    | 植物個体群 | 植物繁殖       | 植物生理生態   | 植物生活史 | 菌類・微生物 |
|-------|-------|------------|----------|-------|--------|
| 景観    | 遷移・更新 | 動物と植物の相互関係 | 進化       | 生物多様性 | 数理     |
| 動物群集  | 動物繁殖  | 動物個体群      | 動物生活史    | 行動    | 保全     |
| 生態系管理 | 外来種   | 物質循環       | 生態学教育・普及 |       |        |

## 注意事項

- 一般講演の講演者（主たる説明者、以下同様）は、日本生態学会の会員（正会員および名誉会員、以下同様）に限ります（共同発表者は会員である必要はありません）。
- 講演者は、2021年11月1日までに、大会申込サイトから講演申込を行なうとともに、大会参加費を納入してください。
- 講演申込には、日本語・英語両方の講演タイトル（日本語全角で40文字以内、英語半角で150文字以内）や講演者名などが必要となります。
- 2022年2月21日（月）までに大会申込サイトから講演要旨（日本語なら800文字以内、英語なら200単語以内）を登録してください。
- 一人で複数の講演の説明者になることはできません（共同発表者になることは差し支えありません）。
- シンポジウムの企画者・講演者は一般講演を行なうことができません（口頭・ポスターとも）。

## ■口頭発表の方法

- 口頭発表は、Zoomミーティングを用いたリアルタイムでの発表および質疑応答で行ないます。
- 各講演者はご自身のパソコンから発表スライドの画面共有を行ない、発表いただくことになります。そのため、使用するOSやファイル形式の指定、ファイルサイズの上限は特にありません。
- 質疑応答もZoomにて口頭で行なっていただきますが、大会ポータルサイトの各講演のページに用意されるコメント機能を用いて、テキストで行なっていただくことも可能です。発表時間中に質問しきれなかった場合などに、適宜ご利用ください。
- 本大会はオンライン開催となりますので、Zoomミーティングの使用法や、ご自身が使用するインターネット環境の安定性について、大会期間前に各自十分なテストを行なっていただくよう、よろしくお願いします。なお、口頭発表の円滑な運営のため、大会期間前にサポート業者を交えたりハーサル（練習）の機会を設定する予定です。詳細については、大会公式ホームページで追ってお知らせします。
- ご自身のインターネット環境や当日の操作方法など、当日のリアルタイムでの発表に不安のある方は、ポスター発表を選択することもご検討ください。ご自身の環境や準備状況によって発表の不具合が生じて、返金等の対応はできかねますので、ご了承ください。
- 発表や質疑応答は録画され、会期後1週間程度オンデマンド視聴できるようになる予定です。オンデマンド配信の可否については、申込みの際に選択してください。

## ■英語口頭発表賞（English Presentation Award, EPA）

本大会では、オンライン開催に伴い従来と同様の審査員による採点が難しくなることから、第8回英語口頭発表賞（English Presentation Award, EPA）の実施は取り止め、聴衆全員による人気投票に基づく表彰（英語口頭発表聴衆特別賞：English Presentation Audience Award, EPAA）を検討していましたが、大会プラットフォームのONLINE CONFのシステムで審査が可能になったことがわかりましたので、従来通りのEPAを実施することとしました。ぜひご参加ください。また、賞に該当しない「非若手研究者」の方の英語口頭発表枠での一般講演も歓迎します。ふるってご参加ください。

## 賞の目的

英語口頭発表賞（EPA）は、大会における英語による研究発表を振興し、留学生や国外からの参加者との議論の場をより多く作ることを目的として設けられています。同時に、特に若手研究者のコミュニケーション能力と国際的情報発信力を高める機会を増やしたいと考えています。今回実施するEPAでも、この目的と精神を踏襲します。

この賞は英語の流暢さなどの言語能力を競うものではありません。応募者には発表の学問的内容と発表技術や姿勢を競っていただき、審査員による採点から優れた発表と判断されたものに賞を授与します。

### 応募資格

従来のEPAの応募資格を踏襲します。すなわち、日本生態学会の会員で、学生（学部、修士課程、博士課程）または2022年3月までで学位取得後5年以内であることが応募条件となります。育児／介護休暇はこの5年間に含めません。過去のEPAおよびEPAAの受賞者も応募可能です。なお、この応募資格は、次回大会のESJ70以降、変更になる可能性があります。

### 審査基準

詳細は後日大会公式ホームページでお知らせしますが、審査員による点数評価により審査を行いません。講演の申込みと賞への応募は、大会申込サイトから行なっていただきます。9月末頃稼働の予定ですので、大会公式ホームページで随時最新情報をご確認ください。皆様のご応募を心からお待ちしております。

## ■ポスター発表の方法

### 概要

ポスター発表は、大会プラットフォーム（ONLINE CONF）にアップロードされたポスターファイルを参加者が大会期間中に自由に閲覧するという形式で実施します。このプラットフォーム上には、ビデオ会議機能（コアタイムのみ）とテキストチャット機能が標準で備わっています。コアタイムにはこのビデオ会議機能を利用して、ポスターの説明や質疑応答を行なっていただきます。また、テキストチャットには、自分のコメントに返信が付いた際の通知機能などもあり、利用しやすくなっています。コアタイム外でもビデオ会議によるディスカッションをした場合には、ご自身で用意されたZoomミーティング等を使用してください。そのような外部ミーティンググループのURLのアナウンス等にもテキストチャットが利用できます。

### ファイルの形式／サイズ、用紙サイズ

ポスターファイルは、PDF形式（音声や動画の埋め込みをしない）で作成してください。20MBまでのPDFファイルならばアップロード可能ですが、ファイルサイズが大きいとプラットフォーム上での表示に時間がかかってしまいます。そのため、ポスターのPDFファイルは、5MB以下とすることを推奨します。ポスターのサイズや縦横比、ページ数等に指定はありませんが、今回使用するプラットフォーム上での視認性・可読性を考慮し、「A0サイズ縦向き×1枚（A0版）」、あるいは「A4サイズ縦向き×4枚程度（A4版）」の2つの形式を推奨します。プラットフォーム上では、A0版であればその全体が、A4版であればその1枚目が表示されます。聴衆はそこから全画面表示への切替や、拡大・縮小、複数ページのポスターであればページ送りをして2枚目以降を閲覧する、といったことが可能です。それぞれの形式の注意点としては、A0版では作成時のフォントサイズによっては文字が小さくなるため読みづらく、拡大する手間がかかる可能性があります。また、A4版は、ページ送りの必要性が生じます。A4版については、従来のA0ポスターの内容を4枚程度に分割して作成するイメージになります。実際にはA4サイズ×4枚はA0用紙と同じ面積ではありませんが、A4サイズ用紙に通常のフォントサイズ（例：12ポイント）で書き込んだものであれば拡大しなくともプラットフォーム上での視認性・可読性は良好ですので、使い慣れたA4サイズで作成されることをお薦めします。いずれの形式の場合でも、口頭での補足説明がなくても研究内容が理解できるように心がけて作成してください。



## 日英併記の推奨

本学会では国際交流に力を入れて取り組んでいます。このため、日本語を理解しない聴衆に対しての配慮を歓迎します。具体的には、ポスターの中で要点を日英併記にする、あるいはポスター内の言語を英語に変更したポスター（英語版ポスター）を別途用意する、などです。英語版ポスターを別途用意していただく際には、たとえば「A0サイズ縦向き」が2枚（日本語版・英語版）、あるいは「A4サイズ縦向き×4枚」が2セット（日本語版・英語版）という構成が推奨されます。

## 補足資料の利用（動画など）

ポスター本体の内容を補足し、聴衆のより深い理解を助けるための補足資料（追加の図表やデータ、文書など）を表示することも可能です。これらの資料は、上述のポスターと同一のPDFファイル内でポスターの後に続くように別ページで格納し、1つのPDFファイルとした上でアップロードしてください（英語版ポスターやこれらの補足資料を追加した場合でもファイルサイズの上限は20MBです）。

ポスターファイル（PDF）とは別に、ポスター内容を説明する動画や発表内容に関連する動画をアップロードすることができます（1ファイルのみ／MP4形式のみ／500 MB以下／5分以内）。プラットフォーム上では、この動画はポスターとは別に表示されます。聴衆はポスターを表示したまま動画を視聴したり、動画ファイルに含まれる音声だけを聞きながらポスターを眺めたりすることができます。ポスター発表の理解度を高めるためにぜひご活用いただき、オンラインならではの「新しいポスター発表」にチャレンジしてみてください。

## ポスターのアップロード

2022年3月1日からポスターファイルや動画ファイルのアップロードができるようになる予定です。アップロードは講演申込者自身が行ないます。ポスター賞に応募している発表の講演者は、2022年3月13日23:59までにポスターのファイルをアップロードしてください（時間的な都合上、コアタイムがある日の当日の朝から審査を開始するため）。ポスター賞に応募していない発表についてもできる限り、前日までにファイルのアップロードを済ませてください。コアタイムまでにファイルをアップロードいただけない場合は未発表として扱わせていただく可能性がありますので、早めの準備をお願いします。

## その他

アップロードされたポスターは、ダウンロードやテキストのコピーができない設定になります。ポスターは会期後1週間程度はプラットフォーム上で閲覧できる状態が続き、この間はテキストチャットを用いたディスカッションも引き続き可能です。会期後も、交流の場としてご活用ください。

## ■ポスター賞

若手研究者の研究活動を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。応募資格については、下記をご参照ください。ポスター発表に関する詳細は大会公式ホームページにも掲載しますので、ポスターを準備するときの参考にしてください。

本大会では審査員確保の観点から、ポスター賞応募数の上限を500件に設定します。申込は先着順とし、上限に達した場合は一般ポスターまたは口頭発表での発表となります。一般ポスターについては、申込数の上限設定はありません。

## ポスター賞応募資格

本大会では、講演者のポスター賞応募資格について以下の条件を設けます。

1. 一般講演の申込締切期限（2021年11月1日）の時点で博士号未取得の学生会員とします。
2. 過去の日本生態学会大会ポスター賞「最優秀賞」または「優秀賞」を受賞した者は、上記の条件を満たしていても応募できません。過去の日本生態学会大会はEAFESと合同で運営された大会を含みます。

## ポスター賞審査の要点

選考上重視されるポイントには以下のようなものがあります。ポスター賞応募者は、これらの点に十分考慮してポスター作成をお願いします。

### (A) ポスターの情報伝達能力

ポスター発表では、研究内容がわかりやすく表示されているかが重要です。例えば、（1）良いタイトル、（2）わかりやすい要旨、（3）視線を引きつける工夫、（4）短時間でおおまかな内容が伝えられる工夫などが必要でしょう。そのためには、字・図表が見やすいこと、情報過多でない、説明なしでも要点が理解できることなどが重要です。公平性を期すために、演題タイトルの受付登録後の変更はお控え下さい。

### (B) 研究の質

（1）新規性・独創性、（2）データの質・量、（3）解析方法の妥当性、（4）議論・結論の妥当性について審査されます。

## ポスター賞に関する補足

- 今回のオンラインポスター発表では、ポスター本体、補足資料（PDF）、補足資料（動画）をアップロードすることが可能となっていますが、このうち審査の対象となるのはポスター本体だけとなります。また、このポスター本体は、「A0縦向き×1枚」または「A4縦向き×4枚程度」の形式で作成することを推奨します。
- 過去に審査対象であった「発表技術」は、今大会では、審査対象に含まれません。優れたポスターは読んだだけでその意義を理解できると考えられるためです。また、ポスター賞の応募者が多いため、審査に要する負担が著しく高まっていることも理由の一つです。ただし、ポスターを見ただけでは評価しにくい項目については、審査員がテキストチャットやコアタイムのビデオ会議機能を用いて発表者に質問し、その応答をもって評価することがあります。
- 日本語を理解しない研究者に対して配慮がなされているかも考慮します。審査の際には使用言語に関わらずポスターの内容についてのみ評価しますが、審査の結果同票だったポスターについては英語による理解が可能なポスターの順位を繰り上げます。英語による理解が可能なポスターとは、少なくとも、タイトル、イントロおよび結論が英語併記される等して、英語を読むだけで研究の概要を理解できる場合、あるいはポスター内の言語を英語に変更したポスター（英語版ポスター）が別ページに用意されている場合等に該当します。
- 使用言語を「英語」、もしくは「バイリンガル」とした場合、ポスターの中に英語での説明を含めるか、ポスター内の言語を英語に変更したポスター（英語版ポスター）も用意するようにして下さい。



## 高校生ポスター発表会・みんなのジュニア生態学講座

高校生ポスター発表会と「みんなのジュニア生態学」は、生態学の社会への普及のため、日本生態学会によるアウトリーチ活動の一環として企画します。高校生（中学生も歓迎です）にポスター発表をしていただき、生態学諸分野の専門家や学生、他の参加校との交流を通して、生態学全般への関心をさらに高めていただくのが本企画のねらいです。生き物の生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも大歓迎です。既に他の学会等で発表された研究の場合、そこからどのように発展したのかを含め、研究の集大成・経過報告としてご発表ください。参加費は無料です。

「みんなのジュニア生態学講座—高校生と研究者の交流会」は今年で8年目を迎えます。現在活躍中の生態学者に、高校生や大学生の頃の話や現在の研究に至った経緯などを話してもらい、高校生に研究者を身近に感じてもらう交流会を行ないます。Zoomを用いてリアルタイムで実施します。詳細は随時、大会公式ホームページなどでお知らせします。

### ■日時

開催日 2022年3月19日〔土〕

|               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| ポスター発表コアタイム   | 13:00～14:00（奇数番）<br>14:00～15:00（偶数番） |
| みんなのジュニア生態学講座 | 15:15～16:45                          |
| 表彰式           | 16:45～17:00                          |

### ■募集要項

#### 参加費

発表者（人数に制限なし）および顧問の教員等（1校につき2名まで）は、大会参加費が免除されます。聴講のみの参加の生徒も無料です。

#### 発表資格

原則として、高等学校（中学校）または高等学校に相当する教育機関に在籍する生徒であること。国籍は問いません。

#### 発表内容

生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも受け付けます。既に他の学会等で発表された研究の場合、そこからどのように発展したのかを含め、研究の集大成・経過報告としてご発表ください。

#### 発表数

本大会においては、発表者の所属1校あたりの発表数は最大2件までとします。ただし、発表の応募総数が50件を超えた場合は、発表件数の多い高校を対象に、発表数の調整をお願いすることがあります。

## 発表方法

- ポスター発表は、大会会場となるオンラインプラットフォーム（ONLINE CONF）にアップロードされたポスターファイルを参加者が大会期間中に自由に閲覧できる形式で実施します。
- このプラットフォーム上には、ビデオ会議機能（コアタイムのみ）とテキストチャット機能が備わっていますのでディスカッションや質疑応答に利用してください。コアタイム外でビデオ会議によるディスカッションをしたい場合には、ご自身で用意されたZoomミーティング等を使用してください。そのような外部ミーティングルームのURLのアナウンス等にもテキストチャットが利用できます。
- ポスターファイルは、PDF形式（音声や動画埋め込みのないもの）で作成してください。ポスターファイルは20MBまでアップロード可能ですが、ファイルサイズが大きくなるとオンラインでの表示速度が低下します。そのため、ポスターのファイルサイズは5MB以下とすることを推奨します。縦横比やページ数等、ポスターファイルの体裁に特に指定はありませんが、口頭での補足説明がなくても研究内容が理解できるように心がけて作成してください。
- 補足説明資料として、動画ファイルもアップロード可能です。その場合、ファイルサイズを500MB以内としてください。ファイル形式はMP4のみに対応しています。ポスターの説明動画や実質的に音声だけの動画ファイルでも問題ありません。
- 発表の講演者は、2022年3月18日23:59までにポスターのファイルをアップロードしてください（時間的な都合上、コアタイムがある日の当日の朝から審査を開始するため）。
- ポスターのアップロードは、1件につき1アカウント（発表申込者）のみ実施できます。代理でアップロードする場合、申込者のアカウント名とパスワードの共有をお願いします。1アカウントで2講演を申込んだ場合、1アカウントから2講演のアップロードが可能です。
- コアタイムまでにファイルをアップロードいただけない場合はポスター賞審査対象外として扱わせていただく可能性がありますので、早めの準備をお願いします。
- アップロードされたポスターはダウンロードやテキストのコピーができない設定になります。

## 審査員

ポスター1件につき複数名の審査員が配置され、質問やコメント、アドバイスをします。

## ポスター賞

選考委員会が内容を評価し、発表されたポスターは最優秀賞や優秀賞などとして表彰します。アップロードされたポスターファイルをもとに1) 研究の意義（新規性、発展性）、2) 手法や結果解釈の適切さ、3) 論理の明快さ、4) 情報を伝える工夫・配慮、5) 質疑応答の5点について審査を行ないます。審査はアップロードされたポスターファイルをもとに行ないます。ただし、ポスターを見ただけでは評価しにくい項目については、審査員が質問し、その応答をもって評価することがあります。

## みんなのジュニア生態学講座－高校生と研究者の交流会

日本生態学会で大活躍中の研究者3名に、ご自身の研究内容だけでなく、生態学の研究を目指したきっかけや中学～高校の様子を語っていただきます。Zoomミーティングを用いてリアルタイムで実施します。講演者は以下のとおりです。

- 桜井良（立命館大学）「演題未定」
- 大竹裕里恵（兵庫県立大学）「演題未定」
- 藤井佐織（森林総合研究所）「演題未定」

## ■ 申込み手順

- 発表申込は大会申込サイトからオンラインで受け付けます。発表を希望する高校は、大会公式ホームページで随時最新情報をご確認ください。9月末頃に受け付けを開始し、2021年11月1日（月）23:59を締切とする予定です。なお発表希望申込数が非常に多い場合には、申込先着順で打ち切る可能性もありますので、早めの申込みをよろしくお願いいたします。
- 発表申込者は原則、顧問の教員または保護者とします。要旨登録などの諸手続きに責任を負っていただける方にしてください。
- 発表内容の要旨（日本語で800字以内）は、2022年2月21日（月）23:59までに申込みシステムから登録していただきます。システムへのアクセス方法等は、大会ウェブページでお知らせします。
- 参加申込は、発表申込後に、学校（所属）単位でまとめて受け付けます。2022年2月21日までに、専用の参加申込フォームから登録を行なってください。参加申込フォームのURLは発表申込の締切後に、発表申込者あてにメールにて連絡する予定です。生徒（発表者・聴講者、人数に制限なし）および、顧問の教員等（1校につき2名まで）の参加費は無料です。
- 発表を行わない学校に所属の生徒が聴講を希望する場合は、大会の聴講者として通常の参加申込（中・高校生は無料）の方法によりお願いします。
- みんなのジュニア生態学講座のみの聴講を希望される方は、2022年2月21日までに、大会申込サイトから参加（聴講）申込みを行なってください。申込者には会場となるZoomミーティングのURLを会期前にメールにてお知らせいたします。なお、高校生ポスター発表（引率者含む）ならびに通常の参加申込みをされている方は、大会プラットフォームから直接アクセス可能ですので、改めて聴講の希望を申し込む必要はありません。
- 問い合わせは、大会公式ホームページの「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

## 注意事項

申込内容や要旨の修正の要望が例年多数寄せられます。タイトルや発表者などの情報は、十分検討してから登録してください。今大会は、正誤表による修正は受け付けませんのでご了承ください。

## 日本生態学会第25回公開講演会

どんぐりの仲間（ブナ科植物）は日本の広葉樹林の優占種であり、日本人には大変馴染みの深い植物です。最近では、ブナ科植物についての研究が大幅に進み、10年前には全くわかっていなかった新しい知見が次々に得られてきました。分子系統学や化石の研究から、北上してきたインド亜大陸がアジア大陸に衝突しヒマラヤ山脈が形成された時期に、東南アジア熱帯山地林でブナ科植物が多様化し、その代表的なグループが日本に分布を広げた進化的な道筋が明らかとなってきました。分布の拡大とともに、開花してどんぐりを実らせる繁殖戦略や、どんぐりを捕食者から守る防衛戦略も多様化してきましたが、この多様性をもたらす仕組みが今まさに解き明かされつつあります。本公開講演会では、どんぐりの生態・進化に関するこれらの最先端の研究成果をわかりやすく伝えることで、自然観察会で解説できる知識をアップデートして豊富化するとともに、人間と森林の関わりについてこれからのあり方を市民のみなさんと一緒に考える機会を持ちたいと考えています。

講演会タイトル **ここまでわかった！どんぐりの謎**

日時 **2022年3月19日〔土〕 13:30～16:00（予定）**

※参加費は「無料」です。

福岡国際会議場でハイブリッド形式にて開催します。現地参加希望者の方々は、事前申し込みが必要です。後日申し込み方法の詳細をお知らせします。講演会は、Zoomウェビナーを用いてライブ中継されます。新型コロナウイルス感染症の蔓延状況によっては、オンライン開催となる場合があります。

### ■演題一覧

#### 1. どんぐりのきた道 ／矢原徹一（九州オープンユニバーシティ）

東南アジアで多くの新種を発見してきた経験をもとに、日本では見るることのできない熱帯のどんぐりの仲間を紹介します。次に、分子系統樹と化石の証拠から、どんぐりの仲間が約5億年前の造山運動の活発化とともに東南アジア山地林で多様化し、その多様な系統が日本まで分布を広げて今日の照葉樹林が形成された歴史についてお話します。最後に、ブナ科の中でも特にコナラ属が食糧・燃料・建材として農耕成立前の人類社会を支えたことも紹介したいと思います。

#### 2. どんぐりの不思議な繁殖戦略のナゾを解く ／佐竹暁子（九州大学）

ブナ科植物の多様化にともなって、次世代である種子（どんぐり）をなるべく多く残す戦略が発達してきました。中でも、どんぐりの多い成り年とほとんど作られない不成り年を繰り返す戦略や、開花から1年もの長い間受精を長引かせる戦略に着目し、これらの繁殖戦略がどんぐりへの栄養投資の仕方や送粉者をめぐる競争に依存して進化したことを紹介することで、どんぐりが持つ繁殖戦略の謎が解き明かされていく面白さを参加者のみなさんと共有したいと思います。

#### 3. どんぐりと昆虫の切っても切れない関係 ／平山大輔（三重大学）

日本産どんぐりを食害する昆虫相はかなり明らかになってきていますが、それらの昆虫にどんぐりがどう対抗して生きているのかについては不明な点が多く残されています。どんぐりの進化を考える上で、そのような昆虫との相互作用の知見を欠くことはできません。どんぐりを食害する昆虫の一種に、どんぐりへの産卵後に枝ごと切り落とすという極めてユニークな行動を

示す昆虫、ハイイロチョッキリがいます。最近の研究で、ハイイロチョッキリの枝切り行動とどんぐりの繁殖特性には明瞭な対応関係があることが分かってきました。ハイイロチョッキリはどのようにどんぐりを利用し、一方、どんぐりはそれに対してどう適応しているのか、野外調査から見てきた両者の関係について紹介します。

## **エコカップ2022（フォトコンテスト）**

大会サテライト企画として例年開催されている親善フットサル大会エコカップについては、昨今の状況に鑑み、昨年度に引き続いて特別企画『エコカップ2022 フォトコンテスト』としてweb上での写真コンテストを開催することにいたしました。エコカップ2022のホームページおよびエコカップ2022公式Twitterアカウントについては、日本生態学会第69回大会のホームページにて順次公開していきます。例年と開催様式こそ異なりますが、エコカップの創設理念に基づき、所属や年齢を問わず参加でき、大会参加者間の交流を促進できるような会を企画していく予定ですので、今後の情報発信にご注目ください。

## **その他の情報**

### **■大会プログラムと要旨集**

ESJ69では、従来のような大会プログラム（PDF版および冊子体）や要旨集は作成されません。2021年12月下旬頃から、日程表や各セッションの講演情報などの情報（大会プログラムに掲載していた各情報）を大会公式ホームページで公開しますので、順次ご確認ください。講演要旨については、大会サイト（<https://esj.ne.jp/meeting/abst/>）にて2022年2月下旬より閲覧できる予定です（ZIP形式の圧縮ファイルでダウンロード可）。また、大会プラットフォーム（ONLINE CONF）上でも2022年3月1日ごろから閲覧できるようになる予定です。

### **■領収書**

領収書は、大会申込サイトからオンラインで発行できるようになります。従来のような送付はありませんのでご注意ください。

### **■現地参加者用の名札**

現地参加用の名札も同様にオンラインで発行されます。現地参加者は、名札をご自身で印刷の上、ご来場ください。名札を身につけていないと会場に出入りすることができません。

### **■大会プラットフォームの利用**

- ESJ69では、大会プラットフォームとしてONLINE CONFを利用します。機能や詳細については <https://agri-smile.com/service/online-conf/> をご確認ください。
- 大会プラットフォームへのログインには、大会参加者個別のIDとパスワードが必要になります。当日参加を含め、参加申込をして参加費の支払が完了すると、ログインIDとパスワードをメールにてお知らせします。
- 大会プラットフォームは、3月1日頃にすべての機能が使えるようになる予定です。大会開催日までに各自ログインいただき、操作方法等をご確認ください。

### **■正誤表の廃止**

今大会では、講演申込みや企画提案後の正誤表による修正を受け付けません。申込や講演要旨



提出時に、内容に誤りがないか十分にご確認ください。特に学会参加経験の少ない学生は、タイトルや発表者情報などについて、指導教員などと十分に相談の上、お申込みください。

## ■キャンセルポリシー

### 大会参加費

各大会について公表されている返金期限（今大会は**2022年2月21日**）以前に参加取消の申し出があった場合は、振込手数料等の経費を除き返金いたします。

各大会について公表されている返金期限経過後は、原則として返金いたしません。

### ESJ69において講演できなかった際の研究成果の取扱

講演要旨を登録の上、期日までに大会参加費を支払った講演者は、以下の事由により講演できなかった場合でも、本学会大会講演要旨を公開しているウェブページ上の講演情報および要旨を本学会が業績として認めます。

- 火災、地震、気象災害、人災、感染症などによる大会の中止
- 大会プラットフォームの障害や大規模なネットワークの障害

ただし、大会参加費を期日までに支払わなかった場合、本学会大会講演要旨を公開しているウェブページから講演情報および要旨を削除し、プログラムに記載があったとしても、当該研究は業績として認定しません。

## ■キャリアエクスプローラー（CE）イラストの表示

講演者である学生・ポスドクは、本人が希望する場合、求職中であることを示すキャリアエクスプローラーイラストを口頭発表やポスター発表の際に表示することができます。（公社）応用物理学会HP <https://www.jsap.or.jp/jsap-meeting/career-explorer> からダウンロードし、口頭発表のタイトルページやポスターのタイトル付近に表示してください。CEイラストの使用許可は取得済みです。

## ■色覚多様性への配慮と快適なオンライン資料

日本人男性の約5%、日本人女性の約0.2%が赤と緑などの色の差を感じにくいという視覚特性をもっています（色弱者）。オンラインの発表では、演者がポインター等を使って文や図を指し示すことが難しく、色などを頼りに口頭のみで注目する箇所を指示してしまうケースも少なくありません（例：「図中の赤い丸で囲った部分が緑で囲った部分よりも大きく変化しています」など）。このような発表は、色弱者にとってわかりづらい発表になります。実際、完全オンラインの前回大会では、色の使い方が原因で発表が理解できなかったという意見を多く聞きました。このような状況を踏まえ、オンラインの発表では今まで以上にカラーバリアフリーへの配慮が必要といえます。端的にいうと赤や緑を使わずにオレンジや青を使うようにしたり、色に頼りすぎないレイアウトをすることが大切です。その他の注意点については、伝わるデザイン（<https://tsutawarudesign.com/universal1.html>）などを参考にしてください。

読みやすく見やすいデジタル資料を作るためには、フォントの選択も重要です。ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）は、誤読を減らすだけでなく、通常のゴシック体や明朝体に読みづらさを感じている人にとっても優しいフォントです。なお、画面上で表示するフォントならば、明朝体よりもゴシック体のほうが圧倒的に読みやすいです。資料のバリアフリー化を意識するなら、BIZ UDP ゴシックなどがおすすめです。

長時間画面を見続けることは聴衆にとって大きな負担になります。目の負担を軽減するためには、背景と文字色のコントラストを少しだけ弱くすると良いと言われています。背景が白い



なら、少しでも明るい黒（グレー）の文字を使うのが有効です。また、背景に淡い色を使うことで黒い文字とのコントラストを小さくするのも目の疲れを軽減できます。文字と背景のコントラストを小さくすることは、視覚過敏症をもつ人にとってのバリアフリー化にも繋がります。

#### ■障がい者への配慮

「障害者差別解消法」に基づく配慮を行ないますので、大会参加に際して、配慮を必要とされる方は大会公式ホームページの問い合わせページからご相談ください。講演を希望される方は、できるだけ2021年11月1日までにご相談ください。

#### ご意見

大会企画委員会では、大会運営についてのご意見を随時受け付けています。大会ウェブページにある「問い合わせ」ページからお寄せください。

<https://esj-meeting.net/>

## 大会企画委員会

|             |                                                                                          |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 企画委員長       | 高橋佑磨（千葉大学）                                                                               |
| 企画副委員長      | 細 将貴（早稲田大学）                                                                              |
| 運営部会        | 潮 雅之、才木真太郎、堤田成政、高野宏平、京極大助、橋本洸哉、立木佑弥、野下浩司、田邊晶史、酒井陽一郎                                      |
| シンポジウム部会    | 小山明日香、吉村真由美、大舘智志、東 若菜、井坂友一、今井伸夫、児島庸介、小林知里、阿部真人、磯村尚子、門脇浩明                                 |
| ポスター部会      | 吉竹晋平、服部 充、山尾 僚、江川知花、長谷川成明、清水加耶、比嘉基紀、土岐和多瑠、鍋嶋絵里、中西 希、細川貴弘、島田直明、松橋彩衣子、平山貴美子、山下 聡、平野尚浩、宮田理恵 |
| 高校生ポスター発表部会 | 中濱直之、望月 昂、片山直樹、城野哲平、宮崎佑介、佐賀達矢、中原 亨、立木佑弥、高木 俊、中村圭司、酒井聡樹、勝原光希、鏡味麻衣子、坂田ゆず                   |
| 発表編成部会      | 榎木 勉、富松 元、赤坂卓美、源 利文、森 英樹、兵藤不二夫                                                           |
| 英語セッション部会   | 深澤 遊、辰巳晋一、杉浦大輔、照井 慧、青柳亮太、宇野裕美、森井悠太、入谷亮介、福森香代子、水元惟暁、上村真由子                                 |

## 大会実行委員会

|                 |                                                                      |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------|
| 大会会長            | 粕谷英一（九州大学）                                                           |
| 大会実行委員長         | 佐竹暁子（九州大学）                                                           |
| 大会副実行委員長        | 細川貴弘（九州大学）                                                           |
| 実行委員会<br>コアメンバー | 津田みどり、榎木 勉、立田晴記、細川貴弘、中原 亨、菱 拓雄、小川浩太、佐々木江理子、佐竹暁子、久米 篤、片山歩美、平舘俊太郎、松林 圭 |

## ER編集部コピーエディター

|         |                                                                    |
|---------|--------------------------------------------------------------------|
| 大会案内の英訳 | 鎌倉真依、神山千穂、José Said Gutiérrez-Ortega、齊藤 匠、佐々木晶子、長谷和子、Leanne Faulks |
|---------|--------------------------------------------------------------------|

# I. 第 21 回生態学琵琶湖賞受賞者

源利文（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）  
吉田丈人（総合地球環境学研究所・東京大学大学院総合文化研究科）

## II. 書評依頼図書（2021 年 4 月～2021 年 8 月）

現在、下記の図書が書評依頼図書として届けられています。書評の執筆を希望される方はご所属・氏名・住所・書名を学会事務局（office@esj.ne.jp）までお知らせ下さい（該当図書をは差し上げます）。なお、書評は 1 年以内に掲載されるようご準備下さい。

- 堀正和・山北剛久著「人と生態系のダイナミクス 4 海の歴史と未来」(2021) 176pp. 朝倉書店 ISBN:978-4-254-18544-7
- 小林牧人・藤沼良典著「理系研究者がハッピーな研究生活を送るには」(2021) 128pp. 恒星社厚生閣 ISBN:978-4-7699-1665-9
- 沼田眞著作集編纂委員会 岩田好宏編「沼田眞著作集第 2 巻 生物哲学—新しい研究領域開拓の軌跡—」(2021) 504pp. 学報社 ISBN:978-4-904079-15-7
- 浅川満彦著「野生動物医学への挑戦 寄生虫・感染症・ワンヘルス」(2021) 208pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-062229-5
- 相良直彦著「きのこ動物」(2021) 280pp. 築地書館 ISBN:978-4-8067-1615-0
- ガー・レイノルズ著 熊谷小百合・白川部君江訳「プレゼンテーション Zen 第 3 版」(2021) 352pp. 丸善出版 ISBN:978-4-621-30620-8
- 樋口広芳編「鳥の渡り生態学」(2021) 340pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-060243-3
- 盛口満著「ゲッチョ先生と行く沖縄自然探検」(2021) 254pp. 岩波ジュニア新書 ISBN:978-4-00-500936-7
- 椿玲未著「カイメン すてきなスカスカ」(2021) 142pp. 岩波科学ライブラリー ISBN:978-4-00-029706-6
- 佐藤喜和著「アーバン・ベア とのヒグマと向き合う」(2021) 276pp. 東京大学出版会 ISBN:978-4-13-063950-7
- 保前文高・大隅典子編「個性学に入門—個性創発の科学—」(2021) 244pp. 朝倉書店 ISBN:978-4-254-10295-6

## III. 寄贈図書

- 「公益財団法人岩谷直治記念財団機関紙『needs』2021 第 47 号」(2021) 114pp. 公益財団法人岩谷直治記念財団
- 「公益財団法人岩谷直治記念財団 研究報告書 2021 年度 Vol.44」(2021) 268pp. 公益財団法人岩谷直治記念財団

橋本昌司・小松雅史・三浦覚著（2021）「森林の放射線生態学 福島を森を考える」丸善出版 238pp. ISBN: 978-4-621-30601-7 価格 2200 円（税込）

本書は放射線生態学と銘打っている。英語で言えば Radioecology と呼ばれる分野で、この用語は、アメリカの生態学者 H.T. Odum によって、1956 年に提唱されたものである（独立してほぼ同じタイミングでソビエト連邦科学アカデミーに属する研究者からも提案があったとされる）。こうした背景から、本学問分野は、個体もしくは *in vivo* のレベルに焦点をあてた放射線生物学では追いつけない放射線、放射性物質の動態または環境影響を、生物と環境の間の物質循環や生物間相互作用を主眼にした生態系生態学のアプローチで評価するものと生態学者からの視点では言えるかもしれない。一方で、本書で述べられているように、放射線生態学は、他にも物理学、化学、水文学、生物地球化学、環境毒性学、土壌学、そして本書のメインターゲットである森林を扱う林学などの学際的な学問分野である。今では、その対象は、生態系システムにとどまらず、人間社会を含む、より包括的なものになっていることが、本書から読み取れる。

ご存じのように福島第一原発事故後、ここ日本において放射線生態学の必要性は急騰した。当時、日本では非常に限られた研究者のみが放射線生態学に関連した研究を行っており、殆どの研究者が手探りで、この学際的な分野を基礎から学ばざるを得なかった背景がある。2 章にまとめられているような放射性物質の基礎知識から学びなおした研究者も多かったように思う。著者らは主として、同じように陸域の広域汚染がおきたチェルノブイリ事故影響下で進められた研究を参照し、また、それらの研究を実際に主導してきた欧州等の放射性生態学者の助力を得ながら、森林汚染の実態調査を進めてきた。本書籍が出版されたタイミングは、原発事故からちょうど 10 年にあたるが、この間の著者らの研究成果を中心に、福島で得られた多くの知見をつぶさにレビューしてまとめられている。それは、まさに十年の放射性生態学の試行錯誤の軌跡であり、その意味で活きた学問がここにはある。

本書には福島第一原発事故の影響下にある森林生態系の理解に必要なための知識が平易に、網羅的で、かつ非常に丁寧に解説されている。各節毎に配置されたリード文は、読者の理解がスムーズになる文言が適切に説明されていると感じた。7 章は、それまでの章の内容を再度、端的にまとめ、著者らの考察を加えながら、今後の指針を示している。この章を読むだけでも、福島の森林のおかれた状況がよく分かる。タイトルは専門家向けの参考書のように見える。もちろんフィールド研究として放射線同位体をこれから扱う日本語話者の学生にとって本書籍は、この上ない参考図書となることを確信しているが、むしろ一般の人にこそ手にとって頂きたいものである（値段も専門書としては良心的）。その意味で、一般の方

に手にとって頂くには、若干タイトルが硬いのが唯一気になっている点ではあるが、平易でも内容は十分に専門的であるので、本書のタイトル決めには、熟考の末であったのではないかと勝手に想像している。特に、第5章（放射線防護と基準値）、第6章（森林の放射線汚染が生活に及ぼす影響）は生活者こそ、知っておきたいと思う知識がまとめられている。実際に、本書籍を通して数式、化学式の使用は最小限に抑えられており、文系、理系を問わず高校生でも十分にオススメできる内容となっている。もちろん、文献の引用もなされているので、より詳細を知りたい研究者にとっても読む価値のあるものとなっている。

昨今、SNSを通じてインターネット上での研究者と一般市民の交流も増えた。その一方で、研究者が発信した、切り取られたバズワードで伝わっていくものは、背景が抜け落ちてしまうことが常である。もちろん、それで十分なケースもあるかもしれない。一方で、福島森林生態系のおかれた現状を伝えるには、削ぎ落とさずに複雑なものは複雑であるとして伝えることは本当に重要で、その意味で書籍というのは、むしろ現代に迫って重要なコミュニケーションのツールになりうるのだということを、本書籍を拝読させて頂いて個人的に強く感じた次第である。また端書きや、コラムには、大きな事故を目の前にしての研究者の戸惑いや葛藤などの思いが書き留められている。どの研究分野でも研究者は真剣ではあるが楽しみながら研究生生活を謳歌していると思うが、こと放射線生態学に関わる研究者は、何某かの迷いを抱えながらも、強い意思をもちながら取り組んでいることが見て取れる。このような姿を伝えることは一定の意義があるように思う。

実際に、この10年に森林生態系の放射線問題は収束されず、依然として残された課題は多い。もちろん放射線生態学の視点だけでは十分な解決策を見出すことができないかもしれないが、少なくとも本書が、いまなお汚染が続いている森林生態系の現状、そして今後を知るための、市民にとっての Guiding light になることを切に願う。  
(国立環境研究所 地球システム領域 仁科一哉)

小池孝良・中村誠宏・宮本敏澄編著 (2021)「森林保護学の基礎」農山漁村文化協会 192pp. ISBN: 978-4-540-12210-1 定価 4,200 円+税

近年、生物多様性の保全が社会的に大きな課題となり、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みも求められている。森林保護学の学問分野に求められる役割も、以前と大きく変わってきたようだ。確かに、私が学生時代に読んだ森林保護学の教科書は、人工林の管理に関連した気象災害や病虫獣害に関するテーマがほとんどだった。しかし、本書の著者らの言葉を借りると、森林保護学の分野は、かつての人工林管理、林業薬剤などによって押さえ込む管理から、総合的生物多様性管理（integrated biodiversity management: IBM）へと、大きく転換している。本書は、IBMの観点から、森林生態系の保護・保全にかかわる様々なテーマに対して、生態学

や生理生態学的な視点を踏まえてわかりやすく概説した良書である。

特に、本書の全体を通じて、時代とともに大きく移り変わってきた人と森林との関わり、またそれに伴う森林環境や森林被害の変化と複雑性を強く感じさせられた。本書は、序章「森林保護学とはなにか」において、森林保護学の定義や目的、IBMの考え方を述べたうえで、森林の環境や種の多様性、森林が地域環境に果たす役割などについてまとめた第1章「森林生態系の特徴と地域環境」、日本の造林や森林被害、防除の特徴や歴史、その変遷について整理した第2章「森林被害の特徴と保護の考え方」へと続く。以降は、より具体的な事象として、第3章「気象災害、火災、大気汚染」、第4章「病害－病原微生物や寄生による樹木への影響」、第5章「害虫－昆虫による樹木への影響」、第6章「野生動物と森林管理」など、森林生態系で起こる様々な森林・樹木被害の発生のメカニズムや対策について、図表を効果的に活用して解説している。特に、近年被害の拡大が各地で問題となっているナラ枯れや、森林被害の大半を占めるシカの個体数増加については、より詳細に解説されており、問題の背景に我々の森林との関わりの変化が深くかかわっていることが理解できる。第7章「森林保護から生態系保全へ」では、外来種が生態系に及ぼす影響について、マツノザイセンチュウによるマツ材線虫病のメカニズムとその被害、被害の対策を中心として述べるとともに、IBMの推進についてより具体的に言及している。付録として、「森林保護と樹木医学の関連と役割」や「樹木の主な病害の症状と対策」についてまとめられており、樹木医を目指す人たちの入門書としても活用できるだろう。

本書は、やや大きめのB5サイズかつオールカラーであり、まさに「森林保護学の基礎」として理解を深めるための良きガイドブックである。本文の横に注釈のスペースを作って語句等の解説を入れている点や、多くの研究者が最新のトピックや本文に関連する内容をコラムの形で紹介してくれている点も、この分野の入門者にとってありがたい。ややお値段は張るものの、森林保護学の教科書として、また林業関係者や生態学にかかわる人たちにとっては森林生態系の保護・保全の基礎として、おすすめの一冊である。

(高知大学農林海洋科学部 市栄智明)

大塚泰介・嶺田拓也編「なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか」(2020) 京都大学学術出版会 350pp. ISBN: 978-4-8140-0285-6 価格 3,600 円+税

人工であろうが、天然であろうが、棲息できる環境とみれば生きものは寄りつく。本書によれば、水田生態系の構成メンバーは6,000種を超えるという。大切に保護される稲と、駆除されるべき雑草・害虫。世間的な印象はそんなところではなかろうか。しかし、「二階建ての生態系」(p145)たる田んぼには、そのどちらでもない「ただの生きもの」(p60)も多数棲みついている。そして田んぼで暮らす生きものたちには、生物間相互作用以



外に、人間による攪乱と淘汰圧による動力学がはたらいている。見慣れた（今や都市生活者にとっては、そうではないのかもしれないが）田んぼについて、実は我々が知らないことだらけであること、社会状況変化にともなう問題が蓄積していることを世に知らしめ、このユニークな生態系の魅力を紹介し、維持に向けての提言を行っているのが本書である。

第Ⅰ部「見過ごされてきたミクロの多様性」では「この分野で博士号を取ったのは、日本でこの人だけ」という執筆陣が「肉眼的な生物を見慣れた感覚からはほとんど奇想天外」な世界へと誘ってくれる。「水稻株のレストラン」(p82)に集う面々の多彩さとユニークさに驚嘆した。第Ⅱ部「水田と他の生息場所のネットワーク」と第Ⅲ部「多様性に影響を及ぼす諸要因」は、農学的視点もふまえながらの農地生物多様性の解析である。旧来の水田環境や農法に適応・馴化してきた水田生物であるが、農法の急速な近代化や時代変化にともなう耕作放棄などより普通種がレッドリストに名を連ねる面々へと変化していることに警鐘を鳴らす。また、多様性に対する一面的な理解に異議申し立てをし、人とともにあるという水田生態系の特殊性ゆえに、総合的生物多様性管理の方向性を追求、「耕作者にも生物多様性にもうれしいやり方を見出して」(p181) いろいろの訴えに評者は共感をおぼえる。

水田生態系は、地質学的には近い過去に人間がつくりだしたものである。では「田んぼにしかない生物は、田んぼができる前にはどこにいたのか」(第12章タイトル)。第Ⅳ部「水田に依存する生物の謎」ではそんな問いに挑む。一般の人々にとって田んぼとは、食べ物を産み出す目的のために存在する極めて実用的な土地でしかないかもしれない。しかしこの土地にも歴史性があり、ときどきのドラマが刻まれて、今があることを描き出す。

全体として、基礎と臨床（応用）の記述のバランスがよく、幅広い視点と知見、熱量をもって編まれた本書は生態学を専攻としない学生に対する入門書としても好適であると思われる。

最後に協道を。「ただそこで生きている（中略）ただの生き物というものの存在をなかなか許してくれない」(p60)という一節が、昨今のあらゆること（研究に対しても）に有益性、見返りを求める世間の風潮に対する嘆きでもあると、評者には響いた。役に立つか立たないかわからないこと、いつか役に立つかもしれないことを受け容れる社会を我々は築かねばならない、そんな思いを抱いた。勝手な拡大解釈、ご容赦願って筆をおく。

（愛知県立松蔭高等学校 教諭 生物・地学 高橋伸行）

**鈴木保志編「森林土木学第2版」朝倉書店 200pp.  
ISBN: 978-4-254-47058-1 価格 3,200 円＋税**

土木工学と聞くと、環境破壊や3Kなど、一般の人はマイナスのイメージを連想しがちである。そのため、大学の工学部では旧土木工学科を英語の「Civil Engineering」に由来する「市民工学科」に、市役所では「土木局」が「建設局」に改名されるなどといった動きがみ

られる。一方、最近ではグリーンインフラをはじめとする地域景観の創造や防災などプラスの側面が見直されるようになり、私たちの社会生活を下支えする重要な営みとして注目されている。本書のタイトルである「森林土木学」は、このような時代の変化を映し出しており、生態学者の視点から読むと、森林を対象とした生態工学としての役割も見えてくる。

本書は、2002年に刊行された教科書の第2版である。私たちの世代が林業工学の授業などで学んだクラシックなテーマである林道やダム、架線の設計、構造計算などを踏襲しつつ、近年注目されている生態系への配慮、特に水循環をベースとした防災機能に至るまで、全200ページ未満に森林土木学、林業工学のエッセンスを取りまとめている。森林の管理・調査において最も重要なのは現場へのアクセスであり、そのために林道をはじめとする森林路網は欠かせない。本書の3分の2が林道の計画、設計、施工、維持に割かれているのも納得できる。また近年、「スマート林業」と称する、森林現場へのデジタル技術の導入が急速に進んでいる。本書でもGPSやデジタルマッピングなど、最新のデジタル技術を用いた、計画・設計のオートメーション化が紹介されている。

私にとって、林道や砂防ダム、架線設計の物理演算は、大学院の受験勉強以来であったが、本書を読んで日ごろ調査地に行くために何気なく走っている林道や通り過ぎている砂防ダムも、計算しつくされた美しい建造物であることに改めて気づかされた。さらに近年、集中豪雨による土砂災害が各地で頻発していることから、防災への関心が高まっており、下流の人命や財産を守るために、山の建造物の安全設計の重要性がよく理解できた。公務員試験において林業職を受験する生物系学部の学生にとって、林業工学はなかなか高いハードルである。そのような生態学会の学生会員にとって、本書は受験勉強の参考書として最適だけでなく、森林を対象とした生態工学の指南書として、おおいに役立つ1冊である。

（神戸大学 石井弘明）

**島野智之著 (2021)「ダニが刺したら穴2つは本当か？」  
風涛社 123pp. ISBN: 978-4-89219-459-7 本体価格  
1,800 円**

好奇心そそるタイトルであり、タイトルの間に対する答えは本の中にあるものの、この本は決してこの問いに答えるだけの本ではない。読者はこの本を通して、世の中には様々なダニがいて、身近で意外と愛らしく、美しい存在であることを知ることになる。この本では、季節毎にダニとダニ学者である著者にまつわる話が紹介されており、全身真っ赤で色鮮やかなタカラダニや、土壌分解者として役立つササラダニ、チーズをおいしくするチーズコナダニ、絶滅した日本のトキに寄生していたとされるトキウモウダニ等々、多種多様なダニ達が登場する。写真も充実しており、ゾウムシについている赤色のタカラダニ幼虫をアクセサリに見立てる遊び心がある一方で、電子顕微鏡写真は細部まで美しく、各器官や構造がどのように機能するかといった解説付きであり、アカデ

ミックな要素も高い。また、ダニ類の分類体系図と美しい細密画が掲載されており、本書で紹介されるダニにはそれに基づいた色違いのマークが施されるなど、分類体系の理解にも役立つ本である。同じく掲載されているオリジナルのダニとその仲間たちの進化の足跡を示す系統樹アートは、ダニの進化歴史の理解に役立つであろう。このようなアカデミックな情報とともに、著者独特の語り口でもって、嫌われ者のイメージが強いダニにもそれぞれの事情があり、必ずしも害をなす存在でもなく、中には人間に役立つものもいて、何より地球上の生態系を形づくる大切なメンバーの一員であることが語られている。ダニへの愛がにじみでており、スカーフを首に巻いた愛らしいキャラクター「ダニーくん」は、著者のダニへの愛を体現したものであろう。なぜ著者はこれほどまでダニに魅了されているのか？ 理由は様々あり、すべてを言葉にして説明するべきではないであろう。しかし、この本の中で著者自身によっても語られているとおり、その理由の一つに、人間とは大きく異なる未知の生物であることがあげられる。自分と大きく異なる生物の理解を試みることは、自分自身の理解にもつながり、自分本位なものの見方や考え方からの解放にもつながる。ダニに興味ある人にも無い人にも、生物に興味がある人には一般書として、そしてダニ学の導入書として是非手にして読んでいただきたい。

(筑波大学 佐藤幸恵)

**日本ペドロロジー学会編 (2021)「改定新版 土壌調査ハンドブック」博友社 193pp. ISBN: 978-4-8268-0228-4 本体価格 2,300 円+税**

土壌研究者という集団がいる。彼らはスコップ片手にいろんな場所にでかけて土壌を調べて、持続的な食糧生産や、環境保全、気候変動対策についての研究をしている。彼らにとって現場に行き一通りの土壌調査をすることが研究の第一歩である。私もそんな土壌研究者の一

人である。研究所に就職したときに、先輩から土壌調査のいろはを教わった。経験を積んですこしずつ土のことがわかるようになった。ちょっと怖い人もいたけれど、土壌断面の前で話したことは意外に覚えている。しかし、土壌研究者でない人が土壌を調べたいと思いついたとしてもどうすればよいか戸惑うかもしれない。

今回、土壌調査ハンドブックの改定新版が出版された。このハンドブックは、日本ペドロロジー学会によって編集され、土壌研究者でない人でも一通りの土壌調査ができるようになってきている。ハンドブックは、実際の調査の手順にしたがってまとめられており、調査の準備、調査地の選定、土壌断面の作成から記載、試料の採取方法が記載されている。土壌調査の経験豊かな執筆陣が丁寧に解説しているので、一通りの調査はできると思う。記載方法についてある程度理解したら、付録にある土壌断面記載例を見てほしい。目で観察した情報がテキスト情報に的確に変換されることを理解できるだろう。土壌調査にはいくつかの手順があるが、調査の際には、このハンドブックを見ながらできるところまでやってみることが大切だろう。最初はうまくいかなくても問題解決の手掛かりはハンドブックの中にあるはずだ。

今回の改定は、2017年に発表された日本土壌分類体系という新しい分類に対応しているという特徴がある。これまではいくつかの土壌分類が利用されてきたが、これらを包括する形で日本土壌分類体系が作られた。この新たな分類体系が広く利用されることを期待している。

一通り土壌調査ができるようになったら、土壌研究者と一緒に調査できる機会があるとよいと思う。日本ペドロロジー学会や関連する学会が主催する土壌調査の講習会などもあるので利用してほしい。土壌断面の前であれこれ話をするのは一番の醍醐味だと思う。土壌の調査方法がわからなかった人、土壌調査の経験はあるけれどさらに経験を積みたい人、土壌に興味のあるすべての人にこのハンドブックをおすすめしたい。

(森林総合研究所 稲垣善之)





## 京都大学 生態学研究センター

Center for Ecological Research  
Kyoto University

京都大学生態学研究センター  
〒520-2113 滋賀県大津市平野2丁目509-3  
Tel : (077) 549-8200 (代表), Fax : (077) 549-8201  
センター長 中野伸一

Center for Ecological Research, Kyoto University  
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,  
520-2113, Japan  
Home page : <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp>

### 2022 (令和4) 年度 共同研究公募のお知らせ

京都大学生態学研究センターは、2010 (平成22) 年度から『生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点』として活動してまいりました。センターでは生態学の基礎研究の推進と生態学関連の共同研究の推進を目的として、共同研究や研究集会・ワークショップなどの公募を毎年行っています。2022 (令和4) 年度の公募につきましては11月より開始の予定です。詳細はメイリングリストでご連絡いたします。また、センターホームページにも掲載いたしますのでご参照ください。

### ● 2021 年度 研究集会・ワークショップ ●

#### ワークショップ『微生物を軸とした群集構造研究の統合とさらなる展開』

開催日：2021年9月24日

開催地：京都大学理学研究科セミナーハウス（オンラインの可能性もあり）

問い合わせ先：山内淳（京都大学生態学研究センター・教授）（E-mail : [a-yama@ecology.kyoto-u.ac.jp](mailto:a-yama@ecology.kyoto-u.ac.jp)）

----- 下記はすでに終了または開催中止となったもの -----

#### 『脱窒菌同位体比測定法ワークショップ 2021』

開催日：2021年5月24日～27日 Zoom 開催

問い合わせ先：木庭啓介（京都大学生態学研究センター・教授）（E-mail : [keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp](mailto:keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp)）

#### 『安定同位体生態学ワークショップ 2021』

開催日：2021年7月26日～9月15日 Zoom 開催

問い合わせ先：木庭啓介（京都大学生態学研究センター・教授）（E-mail : [keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp](mailto:keikoba@ecology.kyoto-u.ac.jp)）

#### 研究集会『シカの脅威と次世代型森林再生のロードマップ研究集会

#### Ashiu Ecosystem Restoration (AER) Project』

開催日：2021年7月29日～30日 Zoom 開催

問い合わせ先：門脇浩明（京都大学白眉センター・特定准教授）（E-mail : [kadowaki.komei.5x@kyoto-u.ac.jp](mailto:kadowaki.komei.5x@kyoto-u.ac.jp)）

#### ワークショップ『若手研究者のための夏季観測プログラム in 琵琶湖』

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止

#### 研究集会『アナンデルの極東旅行から100年—琵琶湖の生物多様性はどこまで明らかになったか』

開催日：2021年8月21日 Zoom 開催

問い合わせ先：西野麻知子（元・びわこ成蹊スポーツ大学・教授）（E-mail : [nishinome2@gmail.com](mailto:nishinome2@gmail.com)）

## ◆会費

会費は前納制で、学会の会計年度は1月から12月までです。

新年度の会費は9～12月に請求をします。会費未納者に対しては6月、9月に再請求します。

退会する際は前年12月末までに退会届を会員業務窓口まで提出してください。

会費を1年分滞納した会員には会誌の発送を停止し、2年分滞納した時は自動的に退会処分となります。

## 会員の区分と個人会員の権利・会費

| 会員種別    | 基本会費*                  | 大会発表 | 選挙・被選挙権<br>(役員・代議員) |
|---------|------------------------|------|---------------------|
| 正会員（一般） | 9500 円                 | ○    | ○                   |
| 正会員（学生） | 4500 円                 | ○    | ○                   |
| 賛助会員    | 年会費<br>20000 円／22000 円 | ×    | ×                   |

\*生態学会では収入の少ない一般会員のために、学会費・大会参加費を学生会員と同額にする措置を実施しています。  
詳細はウェブサイトをご覧ください。

## 【論文投稿の権利】

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| ・日本生態学会誌             | 正会員のみ有          |
| ・保全生態学研究             | 投稿権利は会員に限定されません |
| ・Ecological Research | 投稿権利は会員に限定されません |

## 【冊子配布を希望する会誌の追加費用】

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| ・Ecological Research | 8,000 円            |
| ・日本生態学会誌             | 600 円              |
|                      | (2022 年より 2,000 円) |
| ・保全生態学研究             | 2,000 円            |

## 【非会員に向けた学会誌(冊子体)定期購読料】

- |          |                    |
|----------|--------------------|
| ・日本生態学会誌 | 9,000 円            |
|          | (2022 年より 5,000 円) |
| ・保全生態学研究 | 5,000 円            |

問い合わせ先：一般社団法人日本生態学会 会員業務窓口

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

E-mail: esj-post@bunken.co.jp

Tel: 03-6824-9381 Fax: 03-5227-8631